

糖尿病治療の最前線

治療への意欲を高めた 家族のサポート



担当医 久保 明先生

医学博士・
糖尿病内分泌専門医
東海大学医学部教授
高輪メディカルクリニック院長

夫婦二人三脚で糖尿病の治療に取り組んだKさんのケース

患者氏名	K・F様	年齢	63歳	性別	男性	現病歴	糖尿病
------	------	----	-----	----	----	-----	-----

糖 尿病の治療は、あくまで患者さん本人の「治そう」という自覚が大切ですが、ご家族の理解や協力があれば、よりスムーズに治療を行うことができます。その典型的なケースが、今回ご紹介するKさんのお話です。Kさんはいへんビールが好きな方。昨年の春、地域の健康診断で「血糖値が高め」と診断されたものの、自重することはありませんでした。秋口のことです。Kさんは急に体調を崩され、56kgだった体重が52.5kgまで落ちてしまいました。「夏やせだろう」くらいに考えていたようでしたが、念のために近くの病院で診察を受けたところ、血糖値が258mg/dl、ヘモグロビンA1c（以下HbA1c）は10.6%という非常にコントロールが悪い状態。入院かインスリン治療をすすめられたそうですが、Kさんはそのどちらも抵抗があったため、私のクリニックを訪れたというわけです。

結果から申し上げると、Kさんは入院もインスリン治療もすることなく、3カ月ほどで数値が安定し、HbA1cは5.9%まで下がりました。今のところ合併症の心配ありません。なぜこうもスムーズに治療が進んだのでしょうか。ポイントは、Kさんの奥さまの熱心なサポートにありました。奥さまは、秋に判明したご主人の検査結果を受けすぐに運動をすすめ、夕食後のウォーキングにご自身もつき合うという献身ぶり。また外食はなるべく控え、必要があればお弁当をつくってもたせました。私からは1種類の薬を処方したのみ。あとは夫婦二人三脚で治療に励むことで、早々に血糖値をコントロールできるようになったのです。ただし、本来ならHbA1cが10%を超えていては、飲み薬だけでは難しいものがあります。今回はうまくいきましたが、場合によっては入院やインスリン治療を決断する勇気も必要です。